
国連事務総長特別顧問イブラヒム・ガンバリ博士との意見交換会
「日本はグローバルサウスと国連とどう協力していくか」

令和5年(2023年)11月9日(木)午後4時～5時

衆議院第1議員会館特別室

主催 世界連邦日本国会委員会



冒頭、司会進行役の谷本真邦世界連邦日本国会委員会事務局次長が、来賓として招いたナイジェリアのイブラヒム・A・ガンバリ教授を紹介した。ガンバリ教授は学界、政府、国際外交において40年以上にわたり、ナイジェリア連邦共和国の外務大臣を務め、その後、ナイジェリアの国連大使を10年間にわたり務めた。そしてアフリカ初代の国連政治局の国連事務次長となった。今回の来日に際して、日本がアフリカそして国連でどのような政策を進めていくのが良いか国会議員と懇談するために、今回の会合を開いたと説明された。

谷本真邦氏がガンバリ氏を紹介したあとに、自由民主党の衛藤征士郎世界連邦日本国会委員会会長が挨拶した。



衛藤征士郎征士郎会長は本会議出席の全員に敬意と感謝を表すると同時に、今回は、ガンバリ博士など多くのご来賓を招き、日本がグローバルサウスにどう対応していくかについて話したいと述べた。世界連邦日本国会委員会は国連改革などを通じて、世界連邦樹立の道を探求している。現在世界の様々な場所で戦争が起きており、環境問題などの地球規模課題も山積している。これらに対応できるように、国連を抜本的に変革する必要がある。そのためには、日本がグローバルサウスの国々からの多くの連携や協力が必要である。日本政府は来週までにグローバルサウスへの経済協力を取りまとめる検討をしている。先日のG7外相会合でもこの話題に言及があった通り

である。これらの経済連携を通じて、多くの国々と国連改革を目指していく必要がある。この会議には、日本の国際的な地位や名誉を保つためにも尽力している与野党国会議員や政府当局、世界銀行、国際協力機構、金融機関、事業家などの多くが臨席している。限られた時間だが、有意義な時間になることを願っている。



世界連邦運動協会大橋光夫会長が、昨年、世界連邦運動協会の会長になることを打診された。今回ガンバリ博士とは初対面である。「ガンバリ」とは日本語で頑張るという意味である。ここには多くの日本人がいるが、私も含めて天皇から勲章をもらったものはいないため、ガンバリ博士が最初である。今日有意義な議論が展開されることを楽しみにしていると述べた。



ホテル三日月グループ 小高芳宗 代表取締役社長がコロナ禍初期に中国・武漢からの隔離された旅行者の受け入れことを決めたことは、ホテルの歴史における極めて重要な決断であったと説明した。今後、三日月グループは、充実した社会インフラとなるホテルになることを目指している。SDGsセンターを開設し、教育やエンターテインメントを中心に、地球規模の課題に取り組む決意を示した。



元国連事務総長特別代表 イブラヒム・アッポーラ・ガンバリが、人口2億2,000万人を擁するアフリカ最大の国、ナイジェリア出身である。国連は、2050年までにナイジェリアが世界で3番目に人口の多い国になると予測している。さらに、ナイジェリアはアフリカ最大の経済大国であり、アフリカ最大の民主主義国家でもある。そのため、ナイジェリアと日本が友好関係を築くことは、実に有意義だと考える。

また、193カ国中7カ国しかないG7において、日本は重要な役割を担っている。しかし、たとえ豊かなG7国であっても、単独でグローバルな問題に取り組むことはできないことを認識する必要がある。ナイジェリアを含むグローバルサウスが日本とG7の協力を必要としているように、日本とG7も、グローバルサウスの貢献を必要としているのである。

ナイジェリアは、特に冷戦後のアフリカに対する日本の貢献に感謝している。日本によるTICADの開始と、JICAによるナイジェリアでの支援は、大きな助けとなった。そのため、日本は国連で重要な議席を得る権利がある。しかし、それはアフリカや他の代表権のない地域も正当な地位を確保して初めて実現するものである。国連が設立された1945年以降、世界は変貌を遂げ、日本もアフリカも大きく発展した。従って、我々が一丸となって国連を再構築し、本来の目標と目的を達成できるようにすることが不可欠である。我々は、戦争を防止、または平和的に解決し、より良い生活のために経済開発を促進し、人権と民主主義を堅持するといった国連の目標と目的を推進するために努力しなければならない。これらの目標は、国連が創設された当時と同様、今日もなお妥当なものである。だからこそ、日本、アフリカ、そして人類全体の向上のために団結する必要がある。



ガンバリ氏のプレゼンの後に、世界連邦国会委員会のグローバル推進委員会の座長の長谷川祐弘氏が、意見交換会の司会を務めた。そして、ガンバリ博士から日本がアフリカに協力したことについての感謝を述べていただいたが、実際現在はどうか。最近アフリカでは中国の存在感が増しており、日本の存在感が薄れていると聞いている。その点について、ガンバリ博士の印象はどうか尋ねた。

イブラヒム・ガンバリ氏はアフリカが長年植民地支配下にあった事実を認め、1960年代の独立からアフリカ諸国は「開発」「平和」「繁栄」を最大の課題とし、そのための支援の窓口は広く開かれている。「オープンポリシー」として、我々アフリカは様々なアクターを歓迎する。そのため、過去アフリカを植民地支配した西洋諸国とも、上手く協力している。

中国はインフラ整備や投資などアフリカに必要なものを提供してくれるため、今ではとても影響力のある国である。最近のTICADでも話されたように、日本とは技術的な協力や友好関係構築などを行っている。アフリカが特定の国を選ぶとは考えないでほしく、アフリカとしては共通の目的をもつ国であれば協力していきたいと思っている。日本企業はアフリカにおいて非常に活躍しており、これからもより多くを歓迎する。

長谷川先生がルワンダで活躍したように、日本は国連を通じてアフリカに貢献している。一方ナイジェリア人である私は、ミャンマーにおける平和構築に尽力した。国境を超えたこの協力関係こそが、国連の美しさであると述べた。



自由民主党の山東昭子参議院議員が、超党派で世界母子栄養連盟の会長を務めており、世界の子供達の低栄養を払拭するために活動していると説明した。日本では産官学が連携し、栄養サミットなどを開催している。特にアフリカの子供たちが苦しんでいる中、できるだけ日本から尽力しようと努めている。

色々な話を聞いていると、特に少女たちが通学時に性被害に遭い、恐怖のあまり学校へ行けなくなってしまい、最終的に教育水準が下がるという

実情もある。そういったことをなくすために我々は何ができるのか考えていきたいが、我々は上っ面のところにいるため不安に思うことがある。色々なかたちで、我々が世界の教育水準や識字率を上げられるように従事していきたいと考えている。

山東議員の発言に応じて、ガンバリ氏がアフリカでは多くの紛争が起きており、その一番の犠牲者は子供や女性である。直近のイスラエルとパレスチナの紛争においても1万人以上の方々がガザで亡くなっており、そのほとんどが子供である。国連事務総長は、ガザが「子どもたちの墓場」になっていると言及した。学校に行けないことは悲劇であるが、それ以上に命が脅かされることは最悪の事態である。そのため、子どもたちが安心して学校に通えるようになるために、まずは暴力的な紛争を止めるところから始める必要がある。この点においても、国連の活動は非常に重要な役割を担っていると述べた。



日本共産党の笠井亮衆議院議員が、ナイジェリアをはじめとしたグローバルサウスと言われる国々は、主権国家として独立した後も、長年の間植民地支配の「負の遺産」と苦闘しながら、その克服を目指してきた。その中で、大国主導の秩序を目指す干渉や支配に反対して、不公平な国際機関の代表権や発言権の改革を行ってきた。先進国に有利で不平等なルールの是正や、民主的な国際秩序を目指してきた。それは全体として、植民地支配下で尊厳を奪われた人として、また国としての権利回復を試みる、極めて正当なものだと思う。そういう点では、先進国である日本がグローバルサウスと可能な限り協力していくことは、重要な意味を持っているナイジェリアをはじめとしたグローバルサウスと言われる国々は、主権国家として

独立した後も、長年の間植民地支配の「負の遺産」と苦闘しながら、その克服を目指してきた。その中で、大国主導の秩序を目指す干渉や支配に反対して、不公平な国際機関の代表権や発言権の改革を行ってきた。先進国に有利で不平等なルールの是正や、民主的な国際秩序を目指してきた。それは全体として、植民地支配下で尊厳を奪われた人として、また国としての権利回復を試みる、極めて正当なものだと思う。そういう点では、先進国である日本がグローバルサウスと可能な限り協力していくことは、重要な意味を持っているとの見解をしめした。そして、一つ伺いたい点として、昨今深刻化する気候危機やコロナ禍は、途上国により大きな危機をもたらしてきた。今まさに「地球沸騰化」と言われるような事態は、先進国の経済活動による気候危機である。また、ワクチン格差や核実験による環境汚染や健康被害などの不正義に対して、ナイジェリアをはじめとしてグローバルサウスが声を上げて公正な世界を求めていることは非常に重要なことである。11月末にCOP28(国連気候変動枠組条約第28回締約国会議)が行われるが、ここにおいてもグローバルサウスが非常に大きな役割を果たすと思っている。特にその点において、COP28に対する見解や日本に対する期待を伺いたいと述べた。

これに応じて、元国連事務総長特別代表のイブラヒム・ガンバリ氏はこの話題を出していただいたことを嬉しく思うと感謝の念をしめした。そして、二つの視点で回答した。まずは、アフリカにおける民主主義を考えると、その表面だけを見てはいけない。多くの国がクーデターなどを通じて国の体制を変えてきた。植民地支配からの脱却において、民主主義の側面だけでなく経済や政治など様々な視点から考える必要がある。植民地支配時代の政治システムからの脱却に向けて、元宗主国と元従属国が協力して、搾取的なシステムを変えていく必要がある。また、コロナ禍においては「ワクチン・ナショナリズム」と呼ばれる、国によるワクチンの独占も見られた。その打開策として、アフリカ内でワクチン製造ができるように日本やその他諸国が開発援助を行った。これは日本やその他諸国とアフリカの友好関係を示す一例である。これはコロナのワクチンのみならず、子供達のあらゆる病気に対するワクチンにも共通していえることであると答えた。



その後、立憲民主党の阿部知子衆議院議員が、現在のガザの状況についての話題が出たが、グローバルサウスとして子供たちの安全を守るために、今回訪日されたガンバリ博士はどのような提案や活動をする予定があるのか。また、日本がそれに協力していける道はあるのかを伺いたいと述べた。ガザで悲惨なことが起きているこの時期に訪日したことには、極めて意味があると思う。インドを含めてグローバルサウスは停戦を求めているが、今後の動きが何かしらあれば教えていただきたいと述べた。

元国連事務総長特別代表の長谷川祐弘グローバルガバナンス推進委員会座長が、山東先生や阿部先生が述べたように、ガザでは多くの子どもたちが亡くなっている。その点、グローバルサウスや日本はどのようなことができるのか、ガンバリ氏の意見を聞いた。

元国連事務総長特別代表のイブラヒム・ガンバリ氏は まず最初に大事なこととして、戦争を止めることが必要である。戦争は死と破壊だけを、特に子供や脆弱な人々にもたらす。私の出身地には「もし自分が穴の中にいるなら、まずは穴を掘るのをやめるべき」という諺がある。それはこの文脈では、まず戦争をやめることである。グローバルサウスをはじめ、世界の平和構築をおこなう者達が団結して、戦争をやめさせることが必要である。今日も争いによって命を危ぶまれる子供達を救うために、特に影響力のある者は今すぐ行動をすべきである。

二つ目に重要なこととして、政治的な解決を図るために「二国家解決」を実施する必要がある。グローバルサウスはその実施可能な解決策を推進しなければいけない。それはイスラエルとパレスチナを両端に離し、それぞれの安全保障を確立させて主権を尊重することである。

三つ目に国連改革がある。これは私見ではなく国連憲章に明記されていることで、国連安全保障理決議が採択されておらず、だからこそ日本と我々は協力して国連改革を推進するべきである。

元国連事務総長特別代表の長谷川祐弘グローバルガバナンス推進委員会座長が今国連改革が進まないのは、要するに新たに日本・ドイツ・インド・ブラジルとアフリカの2カ国が常任理事国になるというG4案が頓挫していることが原因になっている。なぜなら、常任理事国入りを希望する各国に対して反対する国がそれぞれ存在し、かつアフリカ内でどの国が常任理事国になるのか決めることができないからである。その点、アフリカ内で決められないことに対してのガンバリ博士の見解を伺いたい。

元国連事務総長特別代表のイブラヒム・アッポーラ・ガンバリ氏は、この点に関してはアフリカの戦略に任せべきである。アフリカは今までコフィー・アナン、ブトロス・ガーリの2名を国連事務総長として選出しており、両者とも私の近い友人である。国連改革に関しては様々な意見が存在し、なかには変化を求めない人々も多くいる一方で、日本、ドイツ、ブラジル、インドの4か国が新たに常任理事国としての主権を求めている。そのため、今後はそれぞれの立場の国々を説得していく必要がある。

国連安全保障理事会での常任理事国にアフリカ諸国の席を2枠設けることにアフリカはこれまで合意しているが、改革は全員の合意なしでは達成できない。そのため、国連改革を進めるためにはやるべきことが沢山ある。容易なことではないが、アフリカ、日本の双方は国連の改革を諦めるべきではない。ウクライナ、ガ

ザにおいて毎日多くの命が犠牲になっていることから、国連が機能していないのは明らかである。国連を機能させるために、各国は国連事務総長に協力しなくてはならない。現国連事務総長を選任した国々は彼を支える義務がある。ガザの女性、子供を戦争による破壊から守るため、戦争を防止するためには、中東における根本的な問題を解決する必要がある。



公明党 谷合正明 参議院議員が、ここ最近、ロシア、イスラエルによる核兵器の使用を巡って脅威とも受け取れる発言もあり、安全保障が厳しい状況となっている。非核化に関しては、核保有国同士、保有国と非保有国とそれぞれ分断があることに加え、非保有国のなかでも核兵器禁止条約を巡って見解が分かれている状況である。このような状況下にて、核のない世界を目指していくために、日本はグローバルサウスと力を合わせていく覚悟が必要であり、核兵器禁止条約へのオブザーバー参加もその文脈で考えることができる。核兵器のない世界をつくっていく上で、日本とグローバルサウスがどう協力できるのかについての御所見をガンバリ氏に伺いたい。



無所属の堂込麻紀子参議院議員がナイジェリア含めアフリカの労働者の現状を顧みて、お互いに様々な分野において協力関係を持つていくことが、グローバルサウス諸国が日本と友好的な関係を築いていく上で非常に重要であると考え。私自身、過去に労働組合の役員を務めた経歴から、労働という観点から見たナイジェリア国内の課題があれば教えていただきたい。

代議士の意見表明の後に政府関係者が発言した

外務省総合外交政策局 藤本健太郎 政策企画担当大使



第一に、ホテル三日月グループの小高社長に対して、コロナ渦における感染者受け入れのご対応を、政府の一員として心から感謝申し上げたい。

岸田政権はグローバルサウスを非常に重要視しており、外遊などもグローバルサウスの重要性を意識したうえでやっている。また、世界の分断やグローバルサウスの台頭が進むなかで、各地域、国との政治関係、経済関係を強化していくことが非常に重要だと認識しており、グローバルサウスとの関係強化は日本の安全保障や繁栄において重要なことであると考え。外務省としては、来月に控えたASEAN首脳会議、来年のアフリカ開発会議(TICAD9)、太平洋・島サミット(PALM)などの外交行事を通じてグローバルサウスとの関係をより強くしていきたい。また、国連改革に

においても日本政府として引き続き着実に進めていく努力をしていく所存である。

世界銀行グループ 米山泰揚 駐日特別代表



現在、途上国は様々な危機に直面している。昨今のガザ、ウクライナにおける食料価格の高騰や難民問題など、問題が山積しているなかで世界銀行としてもこれらの問題にしっかり取り組んでいきたいと考えている。また、先ほど国連改革が話に挙がったが、世界銀行も現在改革の話が持ち上がっているため今後も両者で連携していきたい。

国際協力銀行 常務取締役 大石一郎



我々国際協力銀行は、日本経済を発展させると同時に、世界と共に国際協力を進める役割を担っている。グローバルサウスの国々を含めたホスト国の社会課題や各国のニーズに対して、日本企業の技術等を結び付け金融的な解決策を提供することをこれまで通り今後も継続して行っていく次第である。

また、今後もホスト国であるグローバルサウスの主要プレイヤーへの金融支援によって重層的な関係を構築していくつもりである。加えて、世界銀行等の国際機関、投資国の開発機関とともに連携を強化して様々なプロジェクトを継続して行っていくと述べた。

国際協力機構 平田仁 上級審議役



パンデミック以降、世界はより分断の様相を深めている。

日本が1954年にODAを始めて来年で70年となり、ODAの指揮官としてJICAは多くの開発途上国とパートナーシップを結んでいる。今年新たな開発協力大綱が政府より出され、より一層各国とパートナーシップを広げていくことが大きな柱となっている。分断の世界の中においてパートナーシップを広げていくことで、互いの尊重を高め合っていくことが重要だと思っている。今後もJICAは出来るだけの協力活動をしていく所存であるため、引き続きご支援の程をお願いしたい。

三菱UFJフィナンシャルグループ 袖岡嘉憲 マネージングディレクター



三菱UFJ銀行はこの10年、グローバルサウスへの関与として、ASEAN4か国(タイ、インドネシア、フィリピン、ベトナム)インドに約2兆円の投資をしている。今年ドバイにて開催されるCOP28(国連気候変動枠組条約第28回締約国会議)、12月に行われる日本ASEAN50周年特別首脳サミットなどの国際的な場を活かして、民間金融機関として日本国の国益に資するよう

な動きをしていきたい。また、2025年にはアフリカ開発会議(TICAD9)が横浜にて開催されるが、民間金融機関としてとれるリスクを見極めて日本政府と歩調を合わせてやっていきたい。

元国連事務総長特別代表 イブラヒム・アッポーラ・ガンバリ

世界の分断に対する解決策として、これまでのアフリカ諸国における植民地時代の経験も踏まえ、お互いが尊重しあうことが非常に重要である。国際機関のみならず民間の金融機関からの支援も、これまでにグローバルサウスにおいて非常に大きな役割を果たしてきたため、今後も引き続き継続して支援していただきたい。ミャンマーでの人道的な支援を含め、様々な活動を行ってきた際に日本政府からの支援を多く受けてきた。そのことに関して外務省に対しては大変感謝を申し上げる。国連の今後の改革に関しては資源の確保が必要であり、金融的資源の側面から世界銀行には今後も大きな役割を果たしていただきたい。JICAにつきましても、同僚である緒方貞子さんの時代から共に働いており、二週間前にもシドニーの大学においてJICA職員の方々が多大な人的支援をいただいている。

SDGsを推進するには、各国が抱えている負債の問題や資源の問題の解決が不可欠であり、それらの問題解決が今後の大きな取り組みとなる。最後に、SDGsの大きな目標は貧困をなくすことである。貧困をなくすためには紛争をなくさなければならない。紛争解決、平和維持には財源と資源の確保が必要である。我が国ナイジェリアは非核条約に署名している。非核化の実現は簡単なことではないが、今後も実現に向けて動くことが必要であると思っている。

最後に自民党の衛藤征士郎世界連邦日本国会委員会会長が限られた時間でありながらも極めて示唆に富んだ御所見を賜ったこと、誠にお礼を申し上げる。

谷本真邦事務局次長より閉会が宣言され、本会は終了した。

主たる出席者は以下の通り（敬称略 順不同）

<国会議員>

自民 衆 衛藤征士郎会長、参 山東昭子先生

立民 衆 阿部知子先生、篠原豪先生、参 羽田次郎先生

維新 衆 青柳仁士先生、浅川義治先生

公明 参 谷合正明先生

共産 衆 笠井亮先生

国民 衆 参 川合孝典先生

無所属 衆 参 堂込麻紀子先生

<代理>

自民 衆 土田慎先生、西村康稔先生、穂坂泰先生

維新 衆 掘井健智先生

無所属 参 鈴木宗男先生

<政府>

外務省総合外交政策局 政策企画担当大使 藤本健太郎様

外務省総合外交政策局 政策企画室室長 権田藍様

外務省総合外交政策局 政策企画室 六反田京代様

外務省国際協力局 政策課 村嶋郁代様

<世界連邦関係>

世界連邦運動協会 大橋光夫会長

賀川豊彦関係団体連絡協議会 事務局長 杉浦秀典様

世界連邦青年会議・国会委員会事務局・通訳等 数名

<国際機関関係(元職含)>

元国連事務総長特別代表 イブラヒム・アッポーラ・ガンバリ様

元国連事務総長特別代表 長谷川祐弘様

世界銀行グループ 駐日特別代表 米山泰揚様

<政府系機関>

国際協力銀行(JBIC) 常務取締役 大石一郎様

国際協力銀行(JBIC) 経営企画ユニット長 長友一平様

国際協力機構(JICA) 上級審議役 平田仁様

国際協力機構(JICA) 審議役(国会担当) 上町透様

国際協力機構(JICA) 総務部 サステナビリティ推進室副調査役 竹林太郎様

<外交使節>

ナイジェリア連邦共和国大使館 在京公館長 アミーヌ・アブバカ様

<民間企業>

三菱UFJフィナンシャルグループ マネージングディレクター 袖岡嘉憲様

ホテル三日月グループ 代表取締役社長 小高芳宗様